こども詩の学校

中級

編集

渋谷清視　那須田稔　渡辺増治

こども詩の学校

中　級

こども詩の学校 中級

こども詩の学校

1972年9月／発行©

編者／渋谷清視(代表)

発行者／斎藤佐次郎

発行所／株式会社**金の星社**

東京都台東区小島1丁目4－3
電話／東京03－861－1506(代表)
振替／東京64678

写植／松竹写植
製版／都プロセス社
印刷／熊谷印刷株式会社
製本／株式会社小林製本所

911　渋谷清視(代表)
こども詩の学校 中級
金の星社　1972
192P　22cm（こども詩の学校）

基本カード記載例

8392－037021－1406

乱丁落丁本はおとりかえいたしますので，お求めの書店または本社へお申し出願います。

■この本を読むみなさんへ

詩で こころの 世界を ひろげましょう

『詩の学校』は、あなたが ひとりで、詩を読んだり、詩を書いたりするときの友だちです。

ここには、あなたの心のなかの声を、あなたにかわって、すばらしいことばで表わしてくれている詩があります。あなたの知らない世界を、目に見えるようにひろげてみせている詩もあります。

あなたが、詩を書くとき、この本を開いてください。なにを、どのように書いたらよいか、あなたに話してくれています。

この本で、あなたの心の世界をひろげてください。

■もくじ

春の詩……9

たんぼにて（山村暮鳥）10

■詩話＝のんびりした気ぶんをたのしむうた 12

山頂（原田直友）14

■詩話＝ほとばしる心のふるえをみつけよう 16

おかあさん（野長瀬正夫）18

■詩話＝「おかあさん」とよんでみたい気持 20

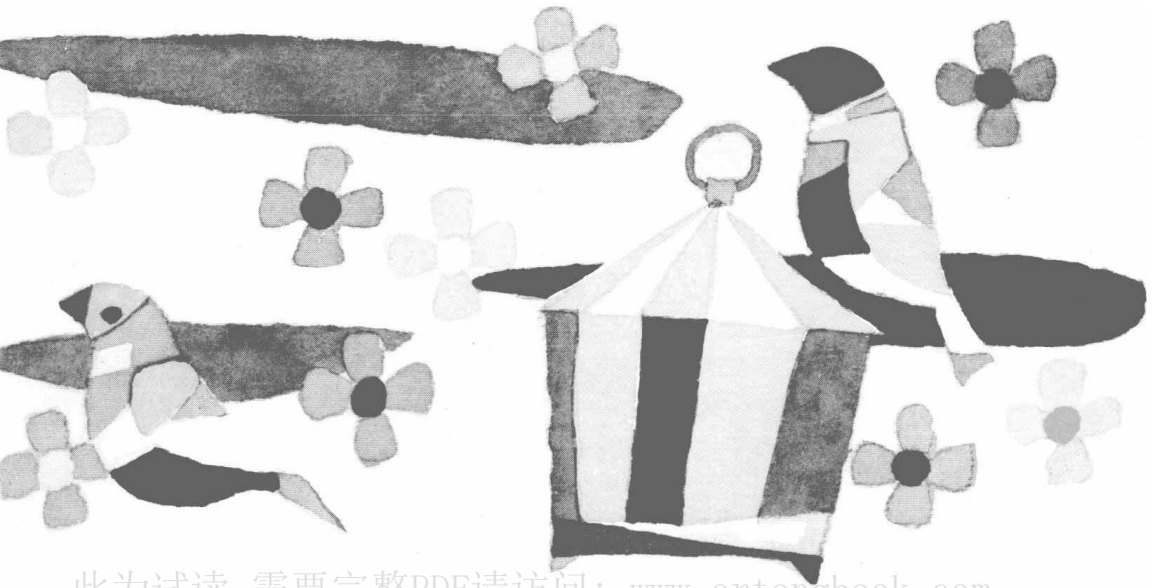
ひとりと　おおぜい（小林純一）22

■詩話＝ぼくのこころが発見することのできたもの 24

春の詩の作者紹介 26

夏の詩……27

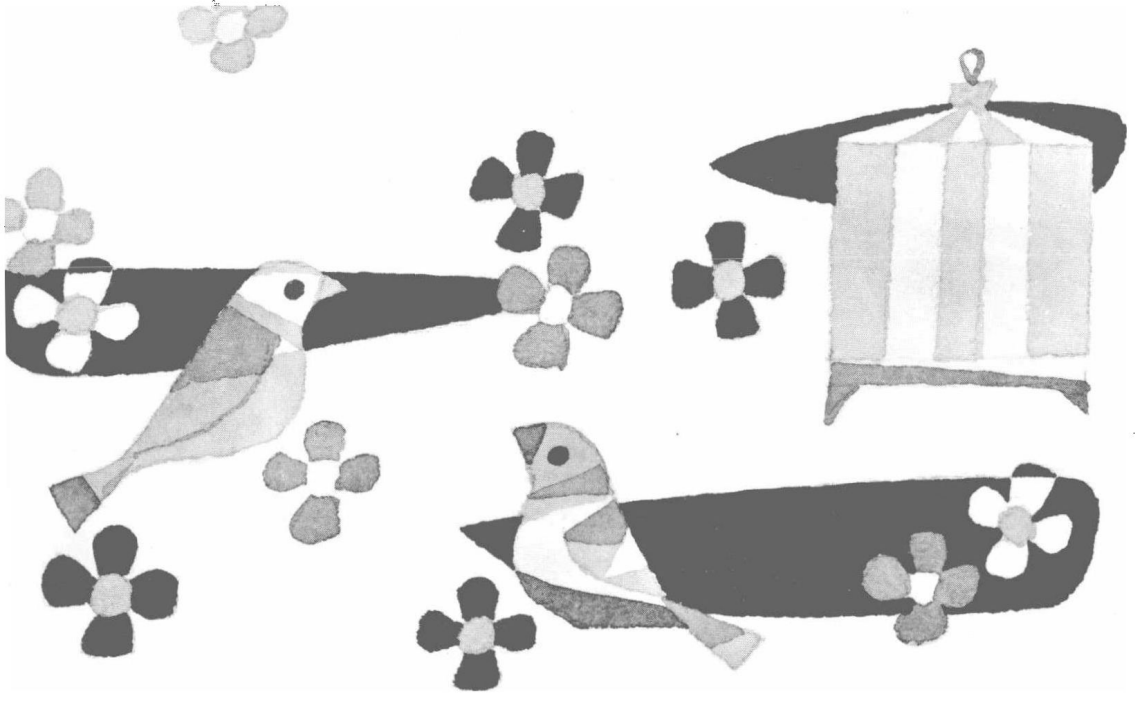
せみを鳴かせて（巽　聖歌）28



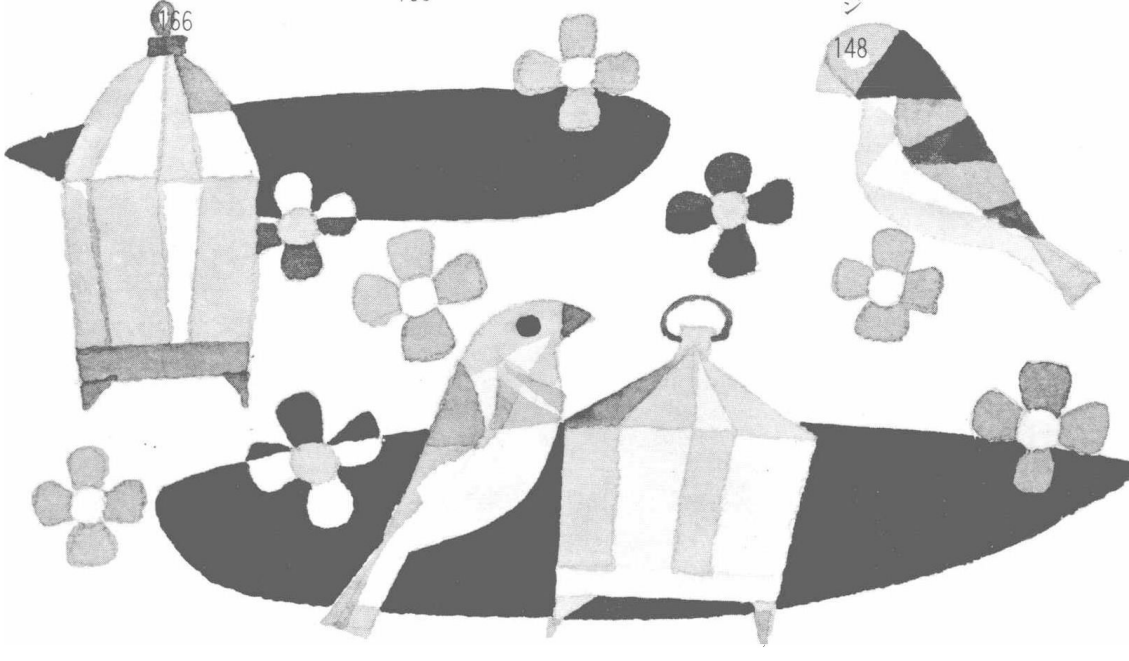
此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

■詩話＝明るくはずんだ男の心 30
夕だち（村野四郎） 32
■詩話＝するどいことばのひびきを感じとる 34
柱（はしら）のしるし（竹中　郁） 36
■詩話＝こころの成長は、なんではかろう 38
はじめて小鳥がとんだとき（原田直友） 40
■詩話＝巣立ちの瞬間をとらえた、愛と喜びのうた 42
あ　め（山田今治） 44
■詩話＝生活をたたく雨のひびき 46
ふんすい（清水たみ子） 48
■詩話＝想像力でとらえた〝ふんすい〟の美しさ 50
てんぷらぴりぴり（まど・みちお） 52
■詩話＝秋のにおいをとどけるなつかしい味 54
夏の詩の作者紹介 56

あなたも　詩が　書ける…　57
■あなたも　詩が　書ける 1
詩のたねは、あなたの生活の中にある　58
■あなたも　詩が　書ける 2
みつめる目　考えるこころ　82
■あなたも　詩が　書ける 3
想像によって　巨人にもなれる　100
■あなたも　詩が　書ける 4
詩のことばは　生きている　116
秋の詩……133
夕日がせなかをおしてくる（阪田寛夫）　134
■詩話＝元気いっぱいの生活をうたう　136
三日月（松谷みよ子）　138
■詩話＝やがて生まれてくる子によせるおもい　140



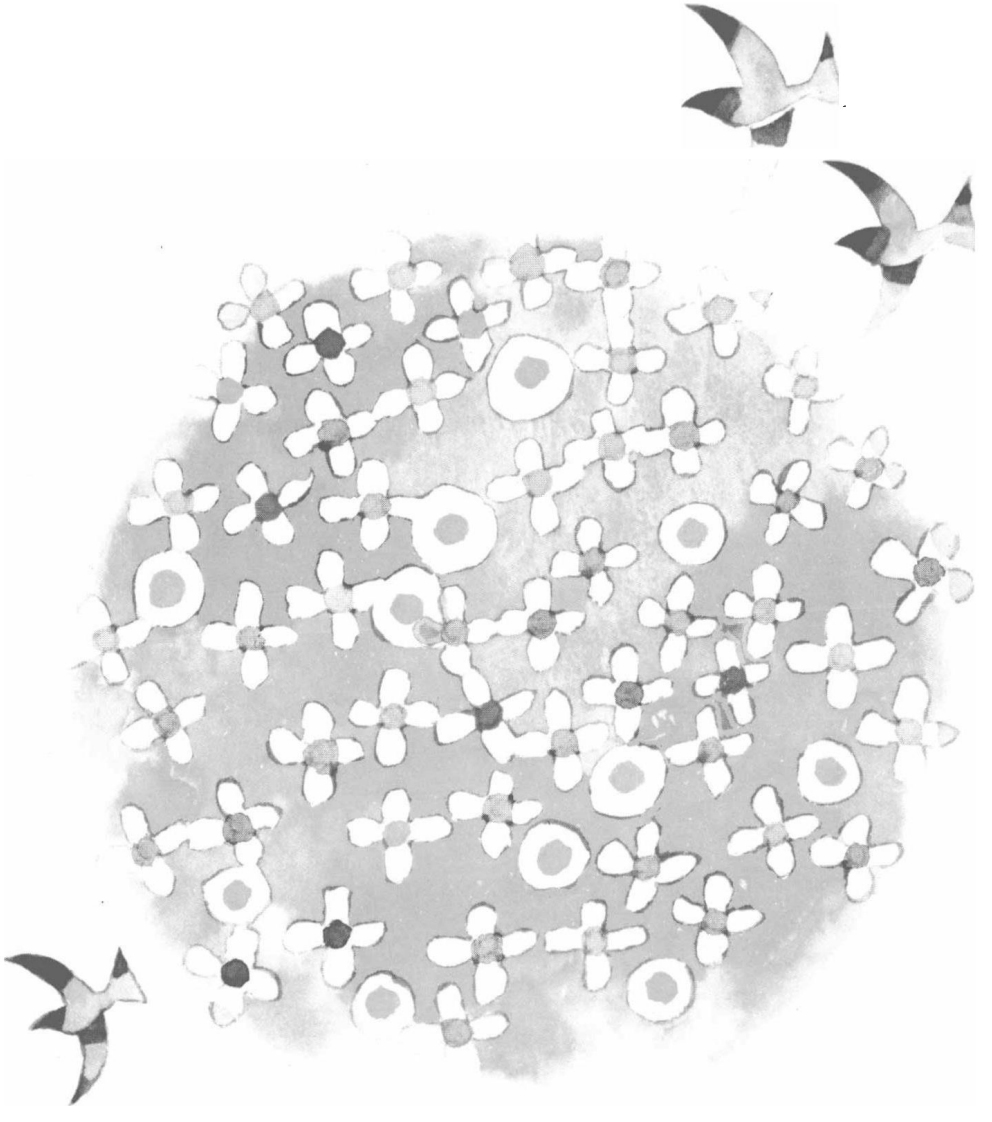
夕やけの雲の下に（百田宗治）142
■詩話＝美しい夕やけ雲にたくされたゆめ 144
白い建物（たてもの）（村野四郎）146
■詩話＝作品のたしかなくみたてと、あざやかなイメージ 148
秋の詩の作者紹介 150
冬の詩……151
ゆき（草野心平）152
■詩話＝しんしんとふりつもる　北国の冬 154
新しい歯（は）（与田準一）156
■詩話＝大きくなるんだという　よろこびをうたおう 158
ぼくたちのあいさつ（阪田寛夫）160
■詩話＝はればれした気分になるあいさつ 162
病気（びょうき）（アグニア＝バルドー・作　宮川やすえ・訳）164
■詩話＝ひとりぼっちの悲しさと　友だちのあたたかさ 166



夜のくだもの（草野心平）168
■詩話＝冷めたい感じの表現 170
冬の詩の作者紹介 172
こどもの生活と詩 173
詩のポスト 174
私の詩集・ぼくの詩集 176
詩の日記 178
父と子（家庭で）の詩の話し合い 180
執筆者紹介 8
解説（渡辺増治） 182
出典の一覧 187

こども詩の学校

中　級



編集　渋谷清視　那須田 稔　渡辺増治

執筆者紹介

渋谷清視
児童文学・児童文化評論家
現住所・東京都武蔵野市緑町二ノ三ノ七ノ四〇五

深美和夫
金沢大学教育学部付属小学校教諭
現住所・石川県金沢市扇町一〇ノ五

清水達也
静岡県立中央図書館主事
現住所・静岡県清水市松井町八ノ二〇

池田愛子
東京都保谷市立保谷小学校教諭
現住所・東京都武蔵野市緑町二ノ三ノ七ノ四〇五

小川恭志郎
兵庫県豊岡市立三江小学校教諭
現住所・兵庫県豊岡市野上二二八

渡辺増治
東京都練馬区立北野小学校教諭
現住所・埼玉県入間郡坂戸町四日市場五九二

しばた のぶお
秋田県立盲学校教諭
現住所・秋田県仙北郡神岡町北楢岡五一

松崎公男
東京都練馬区立田柄小学校教諭
現住所・埼玉県川越市通町二四ノ六

（執筆順）

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

春の詩

たんぼにて

山村暮鳥（やまむらぼちょう）

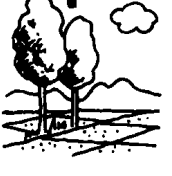
たあんき　ぽーんき
　たんころりん
たにしを　つっつく　からすどん
はるの　ひながの　たんぼなか

たあんき　ぽーんき
　たんころりん
われも　ひとも　いきもんだ
あんまり　ひどく　しなさんな

たあんき　ぽーんき
　たんころりん
からすは　きいても　しらぬ　かお
はるの　ひながの　たんぼなか

〈たんぼにて〉の味わいかた

のんびりした気ぶんをたのしむうた



みなさん、この詩を二・三かい、声にだして読んでみてください。うたわれていることの意味が、はっきりとはつかめなくても、なんだかのんびりとした、たのしい気持がしてきませんか。ひとりでにおぼえてしまった、「たあんき　ぽーんき　たんころりん」ということばが、思わず口からでてきませんか。

「たあんき　ぽーんき　たんころりん」というのは、なんのことなのでしょうか。〝たにし〟とは、田んぼのなかにいる小さな貝で、なかのみは食べることができますが、千葉県・茨城県のある地方には、こんな〝わらべうた〟があります。

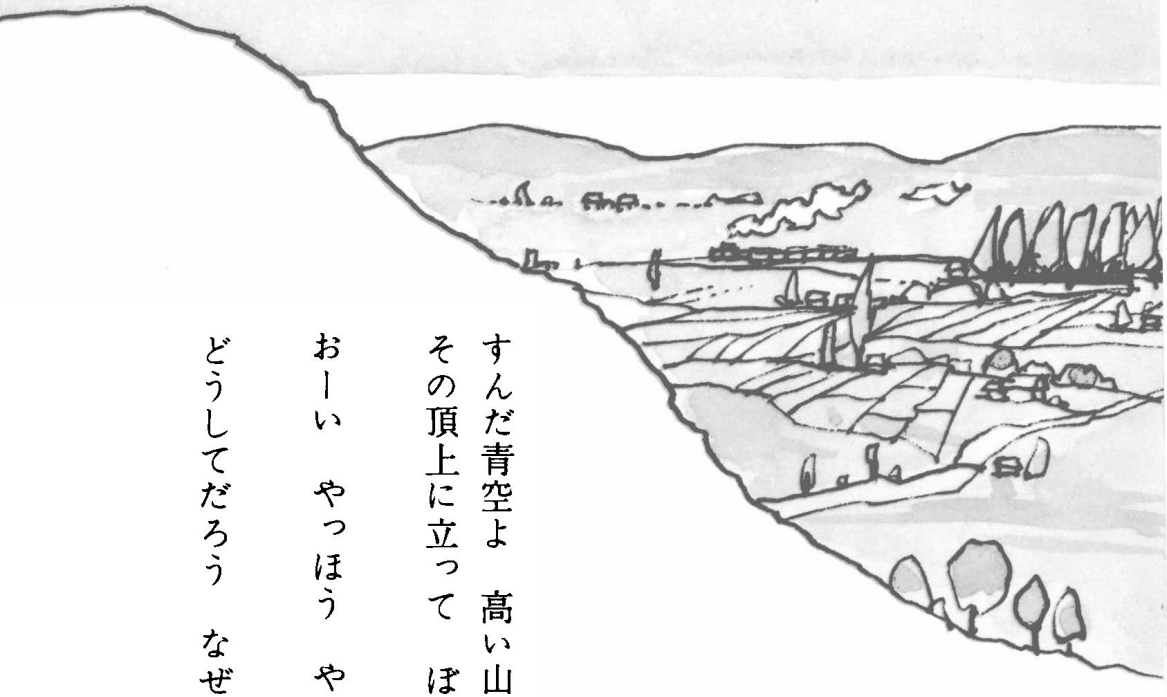
うらのたんぼで
からすがたにしをむく音きけば

たあんき　ぽーんき　たんころりんと
さってもみごとな音がするわいなあ

このうたから、「たあんき　ぽーんき　たんころりん」というのは、からすがたにしをつっついて、貝がらをはがし、なかにあるみをとりだす音だということがわかります。このうたは、その音が「なんとまあ（さっても）みごとな音がするもんだなあ」というふうに、うたっているわけです。

それにしてもかわいそうなのは、たにしのほうですね。『たんぼにて』という詩では、「おまえも、わたしも生きものではないか。そんなにひどいことをするな」と、たにしはおこっています。けれどもからすは、知らんかおをして、あいかわらず、たにしをつっついているのです。

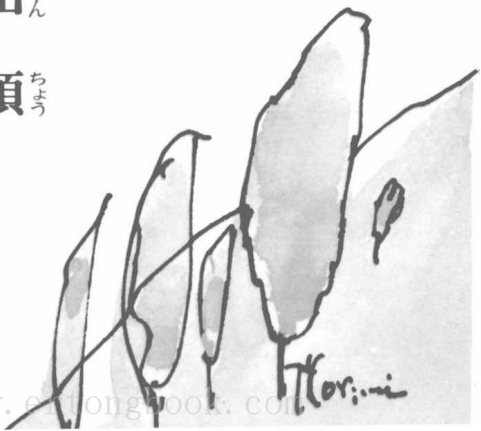
たいへんいじらしい感じの、たにしの悲しみと、抗議の気持をまじえながら、しかしこの詩には、春の日ながの田んぼなかの、のどかな感じがよくあらわれていますね。いまは田んぼに、たにしがいなくなったということですが、あたたかい春の日の、田んぼのなかにいるつもりで、音読（声を出して読むこと）しましょう。**（渋谷清視）**



山頂

原田直友

すんだ青空よ　高い山の頂上よ
その頂上に立って　ぼくらは口々にさけぶ
おーい　やっほう　やっほう
どうしてだろう　なぜだろう　大声でどなりたくなるのは……



此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com